

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.39

日時	2013年9月29日
行脚先	中津城
住所	大分県中津市二ノ町（豊前国）
行事名	

特徴

中津城は豊前國中津にあった城で、黒田官兵衛が築城をしました。
その後、細川忠興が現在の形となるまで完成させ、中津藩の藩庁が置かれました。
周防灘（豊前海）に臨む中津川河口の地に築城された梯郭式の平城です。
堀には海水が引き込まれているため水城ともされ、今治城・高松城と並ぶ「日本三大水城」の一つに数えられています。
本丸を中心として、北に二の丸、南に三ノ丸があり、全体ではほぼ直角三角形をなしていたため、扇形に例えて「扇城（せんじょう）」とも呼ばれていました。
櫓の棟数は22基、門は8棟。総構には、6箇所の虎口が開けられました。
中津城は冬至の日、朝日は宇佐神宮の方角から上り、夕日は英彦山の方角に落ちる場所に築城されています。
また、吉富町にある八幡古表神社と薦神社とを結ぶ直線上に位置し、鬼門である北東には闇無浜神社があります。
天守の存在については不明で、江戸時代の絵図には天守は描かれていない一方、黒田官兵衛の手紙には「天守に銭を積んで蓄えた」とあり、天守の存在をうかがわせる記録もあります。
江戸時代後期の「中津城下図」には、中津川沿岸の本丸鉄門脇に三重櫓が描かれているのみとなっています。

黒田官兵衛との関わり

天正15年(1587年) 黒田官兵衛が、豊臣秀吉より豊前国6郡12万3000石（一説には16万石・その後の検地で18万石となる）を与えられ、馬ヶ岳城に入城しました。
天正16年(1588年) 黒田官兵衛は領地の中心である山国川河口に中津城の築城を始めました。
同年、熊本の一揆征伐で黒田官兵衛が中津城を留守の間に、嫡男の長政は敵対していた城井鎮房（宇都宮鎮房）を中津城内に引き入れて、惨殺します。
慶長5年(1600年) 黒田家は関ヶ原の戦いの戦功により筑前52万石に加増、名島城に転封となり、築城が中断されました。
同年、細川忠興が豊前国と豊後国2郡39万石で入封し大修築を開始します。

記録

